

# 東京日々新聞

九百號



花園章庵

駕籠の首の頭杖のり太く

床笏の金鐘物の威儀

揚々と輝き惠俗の眼を驚

く医へ稲荷病人と殺

せも尾と云ふすと古へ三馬子

の論より古き川柳より三枝

をなやんと殺ありて世上の

白晝と穿ち洒落夫等ハツと

昔の事にてハ文明の世に至りてハ

医学も盛に開け人の病氣ハ

まはるる上医ハ国と医と言ハ名

医多し其ハ中ハ浅草裏門代

地嵐チあめ花園ハ呼智チて先りハ只口

先の相合チ金吾の娘と嫁チ難病チハ

離別チテ持参のゆチ返さぬ事ハ教度ハば

渡世の北川ハその良女

ふと云ふハ弟の

病氣の口

多近頃一話

かり浅草橋ハ近傳辰形

兄弟チある其ハ

子柄と云ひて密隠

子来ると縁チ手チ

久々妻と嫁チ口説チてハ心

子工にチハハ無報事

子柄と云ひて密隠

兄弟チある其ハ

子来ると縁チ手チ

久々妻と嫁チ口説チてハ心

子工にチハハ無報事

子柄と云ひて密隠

兄弟チある其ハ

子来ると縁チ手チ

久々妻と嫁チ口説チてハ心

子工にチハハ無報事

温克堂龍吟誌

待乳山蘇

不表言指の難題は竟に我家に迷入りて花園是之哉

上事とて裁判處へ放出ハ危不日黒日判然とらん

いふぢ

甲貝定屋

渡辺彫米

萬壽  
芳終  
報

75  
70  
65  
60  
55  
50  
45  
40  
35  
30